



Toneyama Kojin

第128号 2025年11月1日

記念美術館通信

Memorial Art Museum News Letter

〒024-0043 岩手県北上市立花15-153-2

TEL/FAX 0197-65-1808

\\ ぼくの //

\\ わたしの //

リトルモンスター 誕生

秋の美術館まつり  
親子でアートを楽しむ

9/13 開催

9月13日、土曜日。前日はとても良く晴れていたにもかかわらず、天気予報は雨。既に小雨がぱらつく中、当日朝のミーティングで、規模を縮小して行うことと、屋内でできることをやろうと決定。いつもとは少し違う秋の美術館まつりがスタートしました。



恒例の「チョークでお絵かき」は、テントの下で行いました。濡れたアスファルトに映える、カラフルな絵が生み出されました。水でにじんで色が混ざり合ったり、濃く発色したりと、新たな発見も。何より、雨が降っているのに外でお絵かきができるという非日常体験ができたことが参加者の思い出に残ったのではないのでしょうか。

「絵の具でお絵かき」は、例年駐車場にある小屋の外壁に模造紙を吊るし、それに描いてもらっていましたが、今回は美術館内にブルーシートを敷き、その上で描いてもらいました。大きなサイズの紙に、皆で仲良く、手や足も使いながら、全身で楽しく描きます。



それを見守る保護者の、温かく愛情に満ちたまなざしが印象的でした。

午後1時から、事前に申し込んだ15人の小学生とその保護者で、造形ワークショップ「リトルモンスターをつくろう」を行いました。講師は昨年度もお世話になった、画家の宮嶋結香さんです。



講師の宮嶋結香さんと

講師の用意したフィギュアを芯にして、コルク粘土で肉付けし、布や貝殻、木の実などのパーツを取り付けていきます。素敵な「リトルモンスター」が完成した後は何人かの制作者にどのようなモンスターを生み出したのか話を聞き、皆で鑑賞し合いました。余った粘土を使って複数体作った子どももいました。唯一無二の可愛いモンスターたち。おうちに飾って、たくさん愛でてあげてくださいね。



1970年代の抽象画にも注目!

後期企画展 画家の流儀 池田次男展 11月24日まで開催中

東北の農村風景や民家、見過ごされがちな自然を接写した絵画などで評価を得、幅広いファンを持つ画家・池田次男が1970年代、新象展への出品作として描き続けた抽象作品があります。いずれも大作で具体的なモチーフは不明なものの、民俗的テーマを感じさせるダイナミックな作品が多いです。具象の風景画の中で対峙すると、やや戸惑うかもしれませんが、池田次男を回顧する時、外せない要素として向き合いたい作品です。大画面に伸びやかに描かれる黒い線や面を中心に構成された絵画は、具象にはない解放感と色彩感覚に満ち、絵画の鑑賞力を一層深めてくれるかもしれません。



池田次男《サナブリ No.2》油彩、1979年

また、小品ですが民家や写実的人物画とは一味違うデフォルメ（変形・ゆがみ）された形態の絵画もあり、試行錯誤を伴いつつも的確な画力が感じ取れるものです。

今期展示会も終盤に入りました。ぜひ当館に足をお運びいただき、画家・池田次男の多彩な創作活動を味わっていただきたいと思います。

## 東京・世田谷美術館

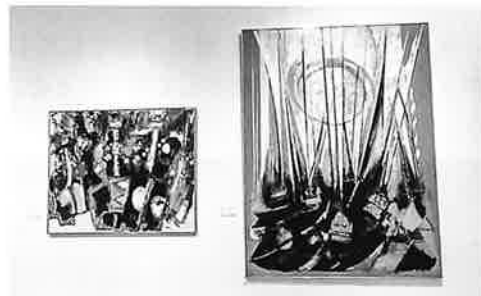
## 利根山光人の画業をたどる大回顧展 11月9日(日)まで開催

緑豊かな世田谷区砧(きぬた)公園の一角に位置する世田谷美術館で、9月13日(土)から11月9日(日)までの会期で利根山光人展が開催されています。世田谷区民だった利根山光人の回顧展は、同館では30年ぶり。メキシコのみならずインド、中国、中東、欧米そして日本各地に創作のイメージを求めた画家の多彩な活動を総合的にたどる大規模な展覧会となっています。油彩、版画、スケッチ、蒐集品、写真他、総計250点を超える出品物の中には、当館から貸し出した油彩画3点(日本の祭りをテーマにしたコーナー)も展示されています。

プロローグとして特集展示されているコーナーでは、当館から貸し出したメキシコ民芸品3体も、利根山が蒐集した他の民族資料とともにポップに展示されています。同じ部屋に展示されていたマヤ、アステカの古代遺跡の拓本は実物大のインパクトを味わうことができ、スケールの大きさに圧倒されます。

この展覧会のカタログには、当市からも「利根山光人の愛した北上」という一文を寄稿しました。豊富な写真資料と合わせ、他の研究者による論稿も充実しており、読むと利根山光人という偉大な画家を多角的に理解できる作りになっています。

あふれるバイタリティと好奇心で力強く歩み続けた利根山の創作の軌跡をぜひこの機会にご覧いただき、この画家が結んだ北上との素晴らしい縁を、改めて皆様と共有したいものだと思います。



当館から貸し出した油彩画2点(許可済)

## 専任研究員の見学感想抄録

- 展示室入り口から圧倒され、行きつ戻りつ何回も繰り返し鑑賞をしました。多くの作品の中で印象に残っているのは《神》《古代》で、重ねた色が重く、深く、長い時間経過のようなことが伝わってきました。小品でも《消すな!》や《No More》は、今まで見たことのないような強烈な力を感じました。最後の展示室にあった《嗚呼!》は、宇宙に旅に行くような、あるいは音楽が聞こえてくるような、大局的な絵だなあと感じました。力とエネルギーに満ちた大作が多く、企画者に感謝です。(高橋平光)
- 入ってすぐ、私が見たかったマヤ・アステカの拓本と民芸品の数々。拓本は大きく鮮明で迫力があり大感動しました。民芸品では「ワニ」と「太陽」の細かい図柄と色に興味を持ちました。北上から貸し出した作品も場所が変わればまたひと味違って見え、また好きになりました。ポストカードでしか見ていなかった絵の実物が目の前に。こんなに大きく色鮮やかだったことを知り、迫力を感じました。もう少しゆっくり鑑賞したかったです。(齋藤正太郎)
- 家族ら5人の団体で、2度目の世田谷美術館を訪れました。大きな世田谷美術館が利根山作品で埋められ圧巻、まさに利根山画伯集大成の展覧会でした。私が特に驚き、感動したのは、写真でしか見たことのないマヤ・アステカ遺跡の拓本です。374cm×221cmの拓本は利根山画伯の執念みtainなものを感じられる作品でした。あの大きな拓本は、どのようにつなぎ合わせ作品にしたのだろうか。いずれにせよ、利根山画伯の大きさを感じる鑑賞会となりました。(高橋浩生)

## 12月1日~3月31日 冬季休館に入ります

今年も8か月間の開館中、たくさんのお客様にお越しいただきました。楽しい出会いもありました。ご来館いただいた皆様、誠にありがとうございました。一方、8月には当館立ち上げからご尽力いただきました初代専任研究員の高橋大八先生ご逝去の知らせが。昨年度の千田浩文専任研究員に続き、悲しい別れとなりました。

さて、当館は積雪等のため、冬の間は休館とさせていただきます。次回、令和8年4月1日(水)の開館まで、しばらくお待ちください。休館中の連絡は、下記生涯学習文化課までお願いします。

来年度は当館開館30周年です。皆様とともにお祝いできるような企画を練っておりますので、どうぞお楽しみに。

発行 北上市まちづくり部生涯学習文化課  
〒024-0061 岩手県北上市大通り1-3-1  
電話 0197-72-8304 FAX 0197-63-3121

利根山光人記念美術館  
●開館時間 10:00-16:00  
(最終入館は15:30まで)